



「時代にマッチしたよりよい別れ、供養を提供したい」と話す大の葬祭グループの川野副代表―豊後大野市三重町

遺灰を散骨する宇宙葬

豊後大野

大の葬祭グループ（豊後大野市三重町）は、遺灰を宇宙空間に散骨する宇宙葬を商品化した。現在は米国から打ち上げるロケットに搭載するプランで、将来的には大分空港からの発射を目指す。

墓を取り巻く状況は厳しい。少子高齢化で管理が難しくなり「墓じまい」をする人が増加。自然災害で倒壊することも多く、近年は海洋散骨や樹木葬などをする人が増えている。

同グループは大分空港が宇宙港になることに着目。米国のロケット会社と提携し、新事業を始めた。遺灰の一部を専用カプセルに入れて打ち上げる。人工衛星に搭載して最長240年間、軌道上を周回するものや約5年で流れ星になるプランなどを取りそろえる。

同グループ宇宙事業担当の川野嘉之副代表(37)は「夜空を見上げればいつでも故人に会える。時代にマッチしたよりよい別れ、供養ができるような手伝いをしたい」と話している。

(山田志朗)

大分合同新聞 2023年1月1日（日）朝刊 2面

